

## ④6 上越市立水族博物館 うみがたり 建設事業

受賞機関 上越市

キーワード 住民参加、地域活性化

## 全建賞審査委員会の評価ポイント

「日本海を打ち出す」をコンセプトに、上越市的水族館80年の歴史を継承した6代目水族館の建設事業。市民や有識者から意見を聞くとともに、3Dシミュレーションなど高度な設計・施工技術を活用し、日本海の海底地形を再現した大水槽を設けるなど、生物のみでなく、生態系や環境について学ぶことにつながる施設となっている点や、多くの来館者が訪れており「まちを元気にする」ことに寄与している点が評価された。

## 1. はじめに

上越市における水族館の歴史は古く、昭和9年に開館した個人経営の館に始まり、現在に至るまで80年以上の歴史を誇る。昭和55年に開館した水族博物館は、開館から30年以上が経過し、老朽化が進んでいたことから、新しい水族博物館を建設する気運が高まり、有識者や専門家、市民を交え検討を重ねてきた。

検討の結果、水生生物や自然環境に関する学びの場であると同時に、多くの人々が集い交流する場として地域活性化の一端を担い、「水族館でまちを元気にする」ことを目標に水族博物館の建設を進めた。

## 2. 事業の概要

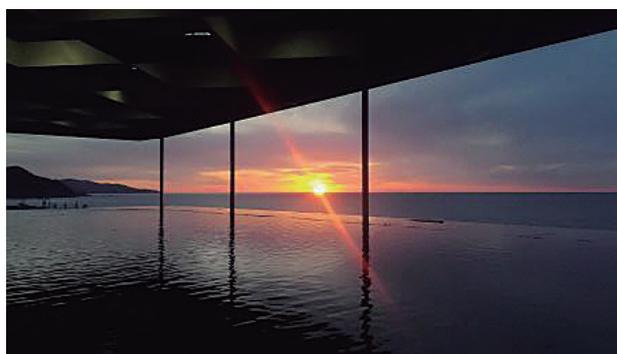
新しい水族博物館の建設にあたっては、有識者、民間の水族館運営者、観光事業者等の知見に基づき、集客見通しや事業収支、整備運営手法などの検討を行った。また、設計段階から数度に渡って「市民フォーラム」を開催し、市、設計者、運営者の想いを市民の方々と共有すると同時に、市民の方々からも多くの意見を得た。

こうした過程を経て、「五感で学ぶ 日本海」を基本コンセプトとし、水槽の水面と目の前の日本海が連続して



ガラスカーテンウォールを配し開放的な外観

見えるインフィニティプールや日本海の海底地形を再現した大水槽をはじめとする水槽展示、上越地方の四季を表現した映像展示などを高度な設計・施工技術によって実現し、水生生物や自然環境について、五感をとおして学ぶことができる水族博物館が生まれた。



日本海との連続性を生むインフィニティプール

## 3. 事業の成果

官民の連携、地域と一体となった機運の醸成を図るなかで、民間の知見や市民の意見を取り入れ、日本海を打ち出した独自の展示施設を有すると同時に、バンドウイルカの通年展示施設やマゼランペンギンの世界最大の繁殖地の環境を再現した展示施設など、日本海を起点として世界の海にも視野を広げ、水生生物や自然環境についてより広く学ぶことができる水族博物館となった。

また、水族博物館に対する期待や意識の高まりにより、周辺地域をはじめとして、市民による地域活性化を促す動きも生まれている。

## 4. おわりに

水族博物館開館から1年が経過したが、入館者数は89万人を超え、当初1年目の目標としていた入館者数60万人を大きく上回っている。多くの方々に入館いただいている要因としては、水族博物館としての魅力に加え、開館前からのプロモーション活動が奏功したと捉えている。

また、周辺の飲食店等も賑わいを見せているほか、市内の観光スポットや施設、イベントなどへの回遊も生まれている。今後も水族博物館を中心としたさまざまな動きが生まれ、まちがより元気になることを目指していく。

賛助会員 大成建設(株)